

# あたらしくはいった本 (平成27年10月 貸出開始資料から)

- 小説 消滅(恩田陸/著) きのうの影踏み(辻村深月/著) 天空の約束(川端裕人/著) 居酒屋ほったくり4(秋川滝美/著) 御用船帰還せず(相場英雄/著) 風かおる(葉室麟/著) 虚栄(久坂部羊/著) 犬の掟(佐々木譲/著) とりのセレブたち(篠田節子/著) プラージュ(菅田哲也/著) うずら大名(畠中恵/著) 我が家のヒミツ(奥田英朗/著) 心の死(エリザベス・ボウエン/著)
- 随筆・詩などの文学 嫌老社会を超えて(五木寛之/著) 薬石としての本たち(南木佳士/著) 親を送る(井上理津子/著) 1冊でわかる村上春樹(村上春樹を読み解く会/著) 連句日和(笹公人/ほか著) キャッツ(T.S.エリオット/著)
- その他の本 山本式弱火調理法レシピ(山本智香/著) 遺言(酒井田柿右衛門/著) JA解体(飯田康道/著) 気がつけばレジェンド(大島勝/著) 自分で治す!副腎疲労(本間良子、本間龍介/著) 膨張するドイツの衝撃(西尾幹二、川口マーン恵美/著)

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896  
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



## としょかんカレンダー

平成27年	日	月	火	水	木	金	土
12	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

### 平成27年度 映画(レーザーディスク)をみようかい

場所: プラム・カルコア太宰府研修室

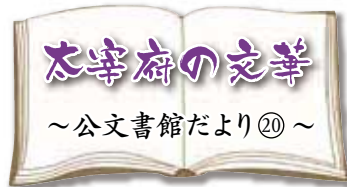
時間: 午後1時30分~ ※入場無料・申し込み不要

12月1日(火)「ウェディング・バンケット」1993年 台湾・アメリカ 1時間49分  
1月5日(火)「ペリッシマ」1951年 イタリア 1時間55分

## 木簡と地域社会

大宰府政庁跡の西に隣接する丘陵は蔵司と呼ばれています。昭和45(1970)年、その西側(蔵司西地区)における発掘調査で、9点の木簡が出土しました。これらは大宰府史跡では初めて出土した木簡であり、また九州で出土した初めての木簡でもあったのです。そのうちの1点に、次のように記されたものがあります(同遺跡出土第4号木簡)。

八月廿日記貸稲数      財部人 物財



「貸稲」は古い呼称で大宝律令施行以降では「出挙」と呼ばれるようになった、稲穀の強制貸付のことです。春に稲穀(本稲)を貸し付けて、秋の収穫時に利息(利稲)を加えて返納させたのです。年月日の後に「記」を付す書式は7世紀末が下限とされることから、大宝律令以前に遡るものとみてよさそうです。下部が欠損しているために不明な点も多いのですが、これは貸し付けた人名とその稲の束数を記した木簡と推定されています。

これによく似た木簡は、福岡県小郡市の井上葉師堂遺跡からも出土しています(同遺跡出土第2号木簡)。それによれば、「□(寅)年白日棕稲遺人」と記した後に、4行にわたって「黒人

赤加倍十」「山部田母之本廿」などの記載があります。「稲遺人」は出挙した稲がまだ返納されていない人のことを、「黒人赤加」「山部田母」はその人名、「倍十」の「倍」は「本稲十利稲」、「本廿」の「本」は「本稲」を意味すると推定されています。こう考えられるとすると、黒人赤加は本稲・利稲合わせて十束を、山部田母は本稲二十束を、まだ返納していないということになります。しかも、

「本稲十利稲」が「倍」とされていること(本稲と利稲を足して倍の量になる)からすれば、その利率は十割であった可能性が指摘されています。さらに「白日棕」は「しらいのくら」と訓み、倉庫の名前で、出挙の貸付・返納がそれを収納する倉を単位に行われていた証拠とも考えられています。つまりこの木簡は、当時の出挙による収取のあり方を、きわめて具体的にうかがうことのできる貴重な史料なのです。

出挙に関する木簡は、全国的にも出土例が増加しており、これまでは明らかにすることができなかつたその実態が徐々にみえてきました。いまや各地から出土する木簡は、こうした古代の地域社会のあり方を考えるうえで欠くことのできない史料となっています。

太宰府市公文書館 重松 敏彦